

小児慢性疾患のトータルケアに関する研究 平成元年度総括報告

加藤 精彦

本年度より開始された「小児慢性疾患のトータルケアに関する研究」の目的の根幹は、小児期における慢性疾患のうち、特に小児慢性特定疾患の指定を受けている重要な諸疾患たとえば川崎病、乳幼児の突然死、肝疾患、遺伝性疾患、慢性循環器疾患、アレルギー性疾患等々をとり挙げ、その本態の更なる究明は勿論であるが、これらの疾患を有する小児の日常生活の管理指針、養育についての各種相談（難病相談や遺伝相談等）のあり方、長期的、総合的生活管理上の実態・問題点とその対策等を検討し、地域に於けるこれら慢性疾患児の包括的な生活支援（トータルケア）体制の確立のための方策をまとめると共に、これら疾患の適切な実態把握のためのシステムのあり方を追究することにある。

その組織としては以下の8班から成り、各々の分担研究者により多くの研究協力者の協力を得て第1年目の研究を各々まとめて頂いた。

- 1) 川崎病に関する研究 分担研究者
川崎富作
- 2) 乳幼児の突然死に関する研究 分担研究者

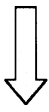
- 坂上正道
3) 小児の肝疾患に関する研究 分担研究者
白木和夫
- 4) 遺伝性疾患をもつ小児の生活管理・指導に関する研究
分担研究者
松田一郎
- 5) 小児期の慢性循環器疾患に関する研究
分担研究者
小佐野 満
- 6) 小児期のアレルギー疾患に関する研究
分担研究者
三河春樹
- 7) 小児期の慢性疾患の長期的・総合的生活管理のあり方に関する研究
分担研究者
加藤精彦
- 8) 小児期の慢性疾患の実態把握システム化に関する研究
分担研究者
北条博厚

これら8研究班の中には、引き続いて研究を進展させているものもあれば、今回新たに開始されるものもあるが、何れにしても現在の医療体制の中で、新しい視野に立って今日の問題の解決のためにコメディカル或はパラメディカルとの協力により、慢性疾患の療育のあり方に関しても踏み込んで欲しいと願うところである。

各班員の先生方はその意のある処を汲みとられ、3年の間にtotal careに関連する長期療養中の日常生活に於ける管理指針や具体的実際の包括医療の推進のために、より行政側の理解と強力な支援が得られるような各地域でのシステム作りも必要であろう。そのために今後共各研究班間での情報交換や指導の調整が共通項目について有機的に行えるようにせねばならない。班を越えての御協力を切に願うものである。

平成2年3月

主任研究者 加藤精彦



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



平成元年度厚生省心身障害研究

「小児慢性疾患のトータルケアに関する研究」

小児慢性疾患のトータルケアに関する研究

平成元年度総括報告

加藤精彦

本年度より開始された「小児慢性疾患のトータルケアに関する研究」の目的の根幹は、小児期における慢性疾患のうち、特に小児慢性特定疾患の指定を受けている重要な諸疾患たとえば川崎病、乳幼児の突然死、肝疾患、遺伝性疾患、慢性循環器疾患、アレルギー性疾患等々をとり挙げ、その本態の更なる究明は勿論であるが、これらの疾患を有する小児の日常生活の管理指針、養育についての各種相談(難病相談や遺伝相談等)のあり方、長期的、総合的生活管理上の実態・問題点とその対策等を検討し、地域に於けるこれら慢性疾患児の包括的な生活支援(トータルケア)体制の確立のための方策をまとめると共に、これら疾患の適切な実態把握のためのシステムのあり方を追究することにある。

その組織としては以下の8班から成り、各々の分担研究者により多くの研究協力者の協力を得て第1年目の研究を各々まとめて頂いた。

- 1)川崎病に関する研究 分担研究者 川崎富作
- 2)乳幼児の突然死に関する研究 分担研究者 坂上正道
- 3)小児の肝疾患に関する研究 分担研究者 白木和夫
- 4)遺伝性疾患をもつ小児の生活管理・指導に関する研究 分担研究者 松田一郎
- 5)小児期の慢性循環器疾患に関する研究 分担研究者 小佐野満
- 6)小児期のアレルギー疾患に関する研究 分担研究者 三河春樹
- 7)小児期の慢性疾患の長期的・総合的生活管理のあり方に関する研究 分担研究者 加藤精彦
- 8)小児期の慢性疾患の実態把握システム化に関する研究 分担研究者 北条博厚

山梨医科大学 小児科これら8研究班の中には、引き続いて研究を進展させているものもあれば、今回新たに開始されるものもあるが、何れにしても現在の医療体制の中で、新しい視野に立って今日の問題の解決のためにコメディカル或はパラメディカルとの協力により、慢性疾患の療育のあり方に関しても踏み込んで欲しいと願うところである。

各班員の先生方はその意のある処を汲みとられ、3年の間にtotal careに関連する長期療養中の日常生活に於ける管理指針や具体的実際の包括医療の推進のために、より行政側の理解と強力な支援が得られるような各地域でのシステム作りも必要であろう。そのために今後共各研究班間での情報交換や指導の調整が共通項目について有機的に行えるようにせねばならない。班を越えての御協力を切に願うものである。

平成 2 年 3 月

主任研究者 加藤精彦